

Ⅱ 令和7年度 学校評価 自己最終評価

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
教務部	教科指導	(1) 学習習慣の確立	3	①③生徒に苦手意識を持たせない、諦めさせない授業内容を大切にす る。同時に、ある程度学力のある生 徒がやる気を持続できる授業の工 夫。 ④教職員側がICTを使用できるよう になり、ICTの活用でどのような授業展 開や課題作成が可能になるかを学ぶ こと。また、生徒がタブレットを授 業等で必要に応じて全員が毎回持参 できること。
		(2) 基礎学力の定着と向上	3	①②③生徒が高校入学時までに身に つけてこられなかった基礎的学力 を、時間をかけて諦めずに指導す ること。また、教員間での情報交換は 授業改善のみならず、教員間の親睦 を深めることにもつながるので、引 き続き活性化していきたい。 ④これまでの朝読書と図書日より等 の取り組みを持続する。教科担当者 や担任・副担任等での本の紹介や読 書に関する話など、機会を見て試み る。
生徒指導部	生徒指導	(3) 生徒との信頼関係の構築	3	①各係会での企画や情報共有がで きており、関係職員との情報交換 もできている。 ②③各行事ごとに、生徒会執行部 や各委員会と責任を持って活動で きるよう、生徒と職員で役割分担 ができた。 ④生活交通係が中心となって、全 職員で取り組むことができてい る。こまめな校則の確認も必要。
		(4) 基本的生活習慣の確立と 集団生活の規律遵守	3	①見届け指導などをベースにし て、状況に応じて適宜指導するこ とができている。 ②自ら元気にあいさつをできる生 徒が多い。場に応じたあいさつを より意識させる。 ③全職員で声かけや見届け指導が 概ねできているが、頭髪指導など 指導の意思統一が必要な部分もあ る。
		(5) 交通安全指導の徹底と事 故・違反の未然防止	3	①②大きな事故や違反が起きな かったことは交通安全指導の成果 だといえる。外部からの交通関係 の苦情等についても逐一生徒・職 員に周知し、安全意識と行動改善 に努めることができている。
		(6) 保護者・地域との連携	3	①体育祭や翔工祭では多くの保護 者が来校されていた。 ②出水特別支援学校との交流学習 など地域の関係機関と情報交換を 行った。 ③校外ボランティアに積極的に応 募する生徒も見受けられた。
		(7) 不登校・いじめ問題への 支援体制	3	①②係会で情報を共有出来てお り、担任団とも連携しながら、個 に応じた対応ができている。経過 報告等についても逐次職員に周知 できている。 ③いじめ問題を考える週間やアン ケートなどで状況把握に努めてい る。
			3	①生徒理解が生徒支援と発展して いけるように、個に応じた対応に努め ていく。 ②③学校行事などをはじめ、色々 な場面で生徒自身が考え、企画し、実 践できるような取組を模索してい く。職員がそれを支えるような形が できていくと良い。 ④本校の生徒指導における柱となる 部分であり、気を抜くことなく全職 員で取り組んでいく。
			3	①各係や担任、学科との密に連携 を取りながら指導していくことを徹底 する。 ②あらゆる場面で自然にあいさつが できるように指導を徹底していく。 ③検査などはもちろんだが、生徒自 らがルールを理解し、それを守る意 識を高めるような指導を心掛けてい く。
	3	①②命に関わることなので、係間の 情報共有を確実にし、生徒に対して 状況に応じて適切な指導を心掛けて いく。		
	3	①生徒会を中心とした生徒自身よ る情報発信ができるとさらにいいと 思う。 ②近隣校や関係機関との交流や連携 を積極的に実施する。 ③近隣でのボランティア活動の紹介 などをこまめに行い、多くの参加を 促していく。		
	3	①②それぞれの事案への対応はその 背景などに違いがあり難しい面があ るが、生徒ひとり一人に対する支援 が行き届くよう、各種委員会をはじ め、学校全体の協力体制を確立させ ていきたい。 ③発達支援的生徒指導を意識した取 組をしていくことで、安心安全な環 境づくりを目指していく。		

		評価項目	成果と課題	評価	改善策
進路指導部	進路指導	(8) 進路意識の高揚	①情報提供を速やかに行い、進路の資料などを提供することにより、生徒一人ひとりが主体的に進路活動に取り組むようになった。 ②担任会の実施によって、情報交換や連携を密にすることができ、適宜に進路相談を行いながら、生徒の社会理解や職業理解を深めることができた。	3	①進路資料室の活用を促していく。 ②今年度同様に、担任会を実施して情報交換会を行っていく。
		(9) 職業観・勤労観の育成	①生徒の希望や職業適性、将来の就職先を十分に検討させたうえで、インターンシップを実施することができた。 ②年3回の就職ガイダンスや、学年に応じた進路セミナーなどを実施することができ、進路への興味を持たせられた。	3	①インターンシップの時期の検討。 ②進路ガイダンスの内容を検討していく。
		(10) 進路実現	①担任を中心にして、計画的に個別面談や三者面談を実施することができ、生徒の希望や適性に応じた進路指導ができた。 ②生徒の希望を踏まえ、計画的に職場開拓・定着指導を実施することができた。 ③職業安定所や各関係機関との連携を、確実に行うことができた。	3	①面談等を随時行っていく。 ②職場開拓の機会を増やしていく。 ③提出期日を守り、確実に行っていく。
保健部	保健指導	(11) 生徒の健康管理	①健康診断や講習など、計画通り実施できた。視力、歯科の受診率が微増した。 ②手洗いうがいなど、予防を注意喚起してきたが、インフルエンザで学級閉鎖になるクラスが出た。	3	①受診率向上のため、各担任団や、部活動と連携を深めていく。 ②県内や出水市内でのインフルエンザの発生状況を示したり、マスク着用などの基本的な予防を継続したりする。必要に応じて、昼休みに換気ができているか確認する。
		(12) 生徒の体力づくり	①体育の授業や体育祭など積極的に運動に取り組んでいた。 ②昼休みに運動をする生徒を増やしたい。	3	①②運動部活動への加入推進と体育の授業における取組を工夫し、体力テストの数値も参考にしながら、体力向上に努める。部活動への加入率向上や継続的な活動には、各部顧問の協力が必須。
		(13) 安心安全な環境づくり	①安全点検を毎月行った。 ②避難訓練に全職員で取り組んだ。	3	①安全点検後の取組を事務室と連携して行う。 ②今年度は消防署や県の原子力安全対策課などの指導の下、避難訓練を行うことができた。継続していきたい。
工業科	工業教育	(14) 教科指導の充実	①進路を念頭に、授業との関連を図り、取り組むことができた。評価については今後も見直していく。 ②専門の特性を生かし、知識・技術の充実が図られた。	3	①早めの情報提供と進路先の研究をおこない、専門科目の知識の習得や資格取得に向けて働きかける。 ②評価について、各科見直しを行い、引き続き改善していく。
		(15) ものづくり教育	①座学と実習・課題研究を関連付けて、ものづくりへの興味・関心を引き出すことができた。 ②ものづくり大会への継続的な指導と毎年の出場で技術の伝承がなされていた。	4	①実習や課題研究などでは、ものづくりに対する興味・関心を持って取り組み、座学との関連づけを行い、総合的に学習をしていく。 ②ものづくりコンテストに向け、今後も継続的に知識・技術の習得に努める。
		(16) 資格取得への取り組み	①資格・検定の情報提供を行い、適宜補習を行うことが出来た。 ②資格への興味・関心に差があり、取り組みが薄くなってしまった。	3	①資格取得者数が減ってきているので、進路先との関連づけやものづくりへの興味・関心を引く手立てを考え、関連付けて資格取得への興味・関心を高める。 ②補習の在り方を、働き方改革に合わせた時間となるよう模索していく。
		(17) 各種行事への参加	①中学校などへの出前授業や奉仕活動を通じて、地域への貢献やつくる喜びを体現していた。 ②産業祭・工作教室・専門高校フェスタへの参加で、工業の取り組みを知らせることが出来た。	4	①②イベントへの参加、近隣学校への奉仕活動を増やし、出水工業の取り組みの発信や「生きる力」を育む機会、地域への取り組みを増やしていく。

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
関連分野 全般	(18) 社会に貢献する人材の育成	<p>①あらゆる活動で、徹底した学習指導や生徒指導を行うことができた。さらなる主体性の向上が必要である。</p> <p>②時間厳守や清掃、あいさつ指導を継続し、基本的な生活習慣の定着が見られた。意識に個人差があり、日常的な声掛けと継続的指導の徹底が課題である。</p> <p>③実習や課題研究を通して専門性を高め、資格取得に挑戦する生徒が増加した。一方、基礎学力の定着や学力差への対応には課題があり、個別支援の充実が求められる。</p>	4	<p>①生徒たちが状況をよく見て、思考・判断して、主体的に行動できるよう適切な指導を行う。</p> <p>②教職員間で指導基準を共有し、日常的な声掛けを統一する。継続的な指導と評価を通して、生徒自身が行動の振り返りができるよう、意識の定着を図る。</p> <p>③習熟度別、少人数指導をさらに充実させるとともに、専門教科と普通教科の連携を図り、学習意欲を高める指導方法を工夫する。</p>
	(19) 教育環境の整備	<p>①教室や実習室の清掃・整理整頓を通して、安全で落ち着いた学習環境の維持に努めた。</p> <p>②定期的な安全点検を実施し、事故防止に努めた。老朽化した設備への対応や計画的な更新・修繕については、引き続き検討と対応が必要である。</p> <p>③進路指導や資格取得支援、地域連携活動を通して将来を考える機会を提供できた。一方、自己肯定感の低い生徒への継続的な支援体制の充実が課題である。</p>	3	<p>①清掃や整理整頓の意義を指導し、生徒自身が役割を持って環境づくりに関わる体制を整える。実習と関連付け、安全意識と責任感の向上を図る。</p> <p>②定期点検結果を共有し、優先順位を明確にした修繕計画を立てる。安全指導を徹底するとともに、関係部署と連携し計画的な更新を進める。</p> <p>③成功体験を積ませる指導を意識的にを行い、小さな達成を評価する機会を増やす。個別面談や関係機関との連携を通して、継続的な支援体制を整える。</p>
	(20) 情報セキュリティポリシーの遵守	<p>①文書管理表に基づき、文書の整理・保管を行い、概ね適切な管理が図られた。</p> <p>②個人情報保護の重要性を全職員で共有し、施錠管理や取扱い手順の徹底に努めた。引き続き、組織全体での意識の維持と確認が求められる。</p>	4	<p>①文書管理手順を再確認し、ICTを活用した共有・整理方法を検討する。担当者間の引き継ぎを明確にし、誰でも分かる管理体制を構築する。</p> <p>②定期的な確認や研修を行い、取扱い手順の再徹底を図る。事例共有を通して危機意識を高め、組織全体での管理体制を維持する。</p>
	(21) 服務規律の確保と資質の向上	<p>①校内外での研修を通して不祥事防止やコンプライアンス意識の向上が図られた。</p> <p>②教育者としての使命感を再確認し、服務規律の厳正確保に努めた。今後も相互の注意喚起と風通しの良い職場づくりを通して高い倫理観を維持する必要がある。</p>	4	<p>①研修後の共有や校内報告の機会を設け、学んだ内容を校務や指導に反映させる。日常業務と結び付けた実践を意識し、継続的改善につなげる。</p> <p>②服務規律に関する共通理解を深め、日常的な声掛けや確認を行う。風通しの良い職場環境づくりを通して、互いに高い倫理観を保つ体制を整える。</p>